

令和5年度 基本施策評価シート

作成日

令和5年7月12日

基本施策	D4	環境意識・行動の定着を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	だれもが		環境に対する当事者意識を持ち、環境行動を実践している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			114ページ
基本施策主管課名	環境政策課	関係課名	土木総務課、廃棄物対策課、ゼロカーボンシティ推進室、学校教育課

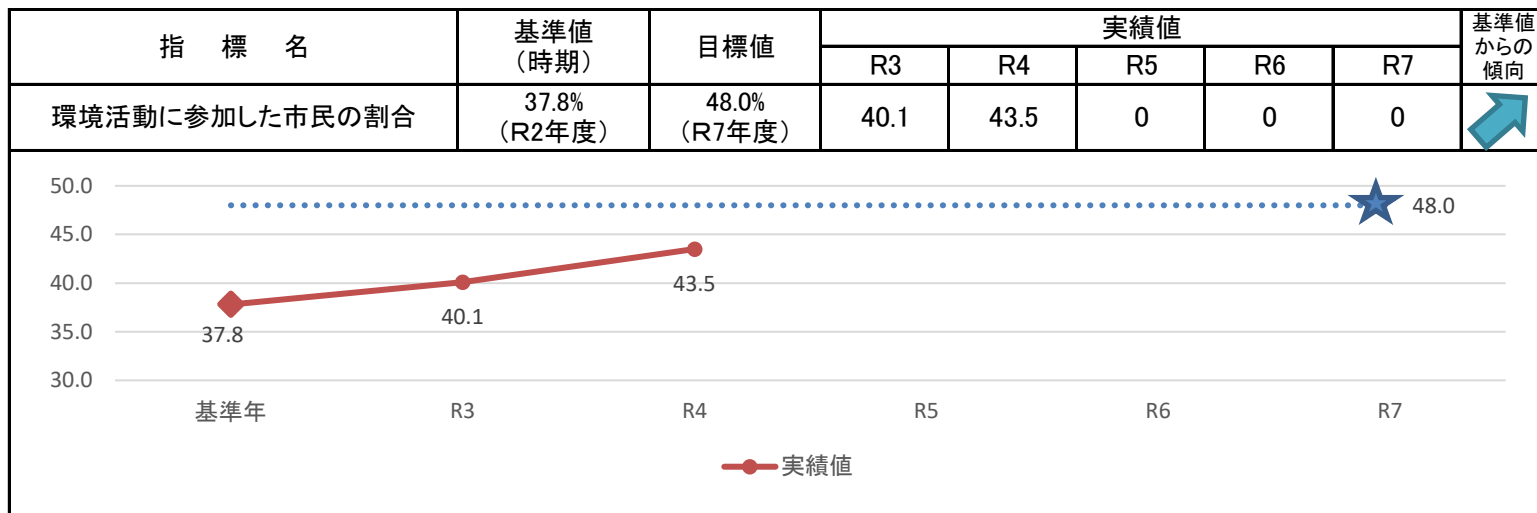
基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「環境活動に参加した市民の割合」は43.5%(令和4年度実績)で、2025年度(令和7年度)に目指す姿である48.0%を下回っているものの、基準値である37.8%(令和2年度)からは順調に推移している。 ●コロナ禍の影響もあるが、環境学習等への参加者数や環境保全団体メンバー数が伸び悩んでおり、環境学習および行動に取り組む新たな層の掘り起こしが十分でない。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
D4-1	<ul style="list-style-type: none"> ●小中学校においてはESD講座の取組みにより環境学習を深化させるとともに、全世代において「サステナプラザながさき」を中心として、環境講座や教室等を実施することで多様な世代が学べる場を拡大していく。
D4-2	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境行動の推進役」としての「サステナプラザながさき」の周知を行うとともに、市の様々な広報手段と連携して、取り組み内容を発信し、幅広い市民の参加につなげる。 ●「ながさきエコライフ」の取組み等を通じて、市民生活や事業活動における温室効果ガスの排出削減や、省エネなど身近な環境行動を促し、市民及び事業者への周知・啓発を充実することで、継続的な環境行動の実践を進める。

二次評価(施策評価会議による評価)

●	D4-1「今後の取組方針」「①幅広い世代への環境教育・啓発の推進」において、「無関心層の方に関心を持ってもらう」との記載があるが、そのための方策が重要な要素であることから、具体的な方策について記載すること。
●	D4-1「今後の取組方針」「②環境教育の次世代を担うリーダーの育成」において、「若年層の推進を増やしつつ」との記載があるが、そのための方策が重要な要素であることから、具体的な方策を記載すること。
●	D4-1「成果指標」「環境学習等への参加者数」において、目標値と実績値が大きく離れていることから、その要因がわかるよう、説明を追記すること。
●	D4-1「成果」について、全般的に、参加者などの具体的な数値が記載されていない部分が見受けられることから、EBPMの視点も踏まえ、数値化が可能なものは具体的に記載すること。

成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・親子環境教室の開催 3回開催、201人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、41人参加 ・環境副読本の制作・配布 (データにより提供) ・ながさきエコライフ・フェスタ 6,900人 ・ながさきエコライフ・ウィーク 39,200人 ・ながさきエコネット登録者数 56,626人 			

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1	環境に対する当事者意識の醸成を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	だれもが		あらゆる世代で環境を学び、当事者としての環境意識を持っている。
個別施策主管課名	環境政策課		

成果

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

●新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが未開催またはイベントへの参加者が少なかった状況はあったものの、「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を開催したことで、親子での自然環境、省エネ等の体験を通して、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけにつながった。
「親子環境教室」3回 201人【D3-1から再掲】
「親子で省エネ実験・施設見学会」1回 41人 ※九州電力株式会社長崎営業所との共催

●様々な団体に対し実施する地球温暖化防止活動推進員による環境出前講座にて、LED化の啓発や牛乳パックやシーグラスを用いたエコ工作を実施することにより、幅広い世代において自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。
「環境出前講座」21回 545人

●小中学校61校において、総合的な学習の時間等における環境学習をはじめ、節電・節水、緑のカーテン、落ち葉や給食残滓を利用した堆肥づくりなどの環境行動の取組みを通して、環境意識の醸成が図られた。
また、26校において給食用牛乳パックの回収を行い、77校において家庭から排出されるペットボトル等のふたやプルタブの回収を行ったことから、児童・生徒及び保護者のごみ分別・リサイクル意識の醸成が図られた。【D2-1から一部再掲】

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

●環境団体との連携により小中学校の授業として実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座を7校で実施したことにより、子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。

●環境副読本の内容やデザイン等を刷新し長崎市の情報をより多く掲載しデータにより提供したことにより、子どもたちにとって環境問題がより身近な問題として感じられ、その問題解決や改善に向けて取り組む意識の向上と環境学習のサポートにつながった。

●サステナプラザながさきを中心として、地球温暖化防止活動推進員を対象としたスキルアップ研修及び市民ネットワーク『ながさきエコネット』と連携、協力することで、環境教育の次世代を担うリーダーの育成に努めた。
「スキルアップ研修」3回 18名

問題点とその要因

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

●開催した講座、説明会の多くが、関心をもってもらうことを目的とした内容となっており、さらなるレベルアップやスキルアップを目指す方々への情報提供や意見交換などに繋がるような研修、講座が不足していた。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

●小中学校においてはESD講座などの新たな取組みを実施する時間的な余裕がないため、学校側が実施しやすいような講座内容の工夫をしているものの、その効果が一部にとどまっている。

●地球温暖化防止活動推進員の若年層(18~34歳)の割合が26名中3名と少なく、また、推進員向けスキルアップ研修が年1回のみと少なかった。

今後の取組方針

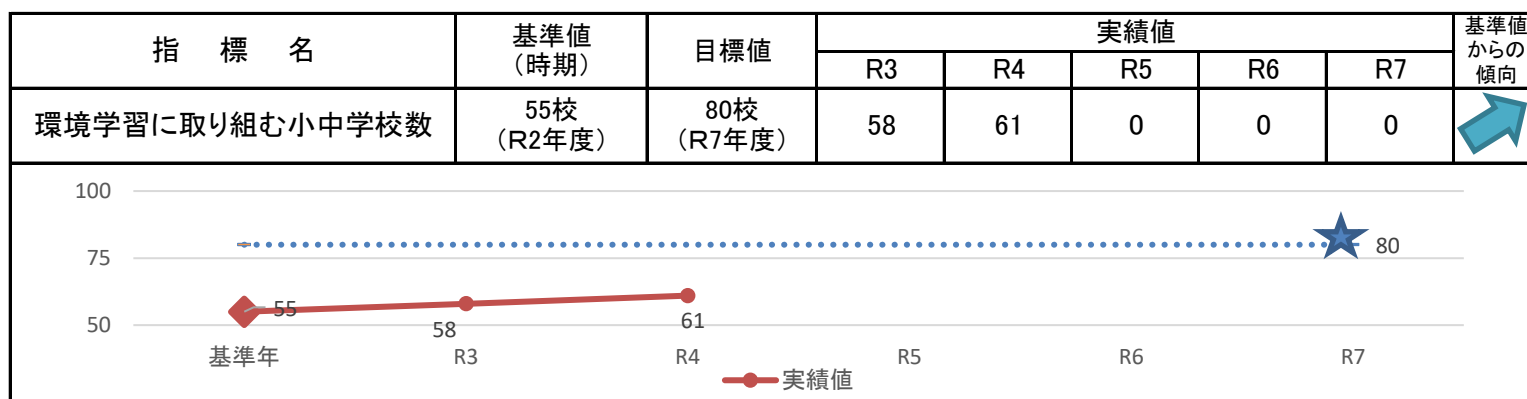
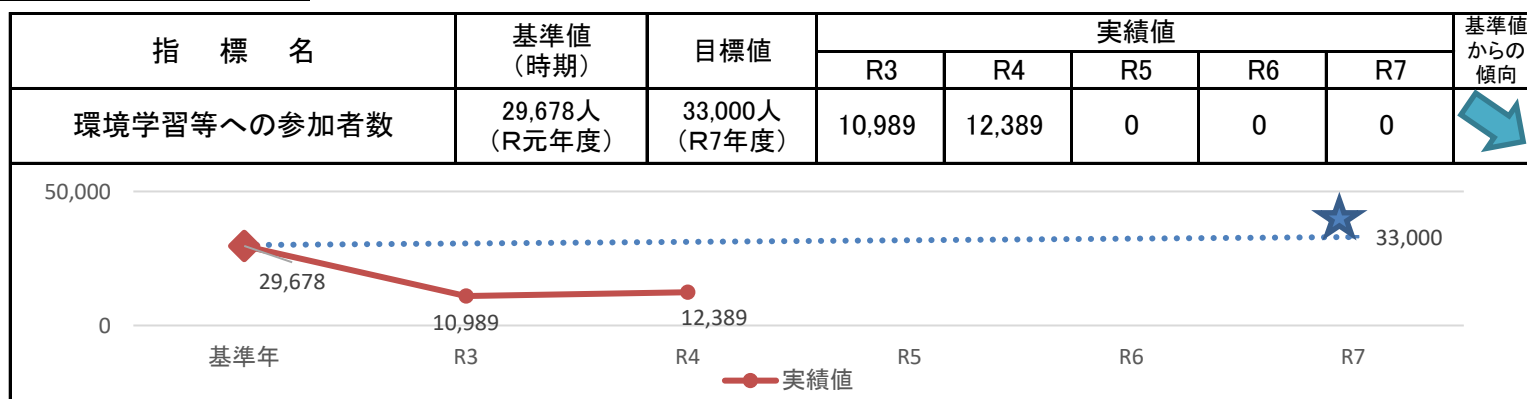
① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

継続	●「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を継続し、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけづくりに努める。
改善	●経済的メリットが得られる場を設けることで新規の参加者を増やしつつ、更なるレベルアップやスキルアップを目指す方々への講座を実施する等、目的や対象を意識した講座となるよう努める。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

継続	●環境団体との連携により小中学校の授業として実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座の取組みを広げるとともに、他の手法についても検討しながら、「ゼロカーボンシティ長崎」の推進と子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力の育成を図る。
改善	●環境活動を行っている学生団体に働きかけることで若年層の推進員を増やしつつ、推進員を対象としたスキルアップ研修を増やすことで環境教育の次世代を担うリーダーの育成を図る。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	環境啓発推進費	環境政策課	
	事業目的	環境意識の高い市民を増やすことで自発的に環境行動を実践する市民を増やし、持続可能な社会の構築を目指す。		
	事業概要	親子環境教室、親子で省エネ実験・施設見学会など、次世代を担う人材の育成のための環境教育を行うとともに、環境副読本の作成などを行う。		
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・親子環境教室の開催 3回開催、201人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、41人参加 ・環境副読本の制作・配布(データにより提供) 		
	決算(見込)額	3,272,332 円		



【親子環境教室の開催】



【親子で省エネ実験・施設見学会の開催】

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-2	環境行動を促し、生活様式として定着させます
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	だれもが	自発的な環境行動を実践している。
個別施策主管課名	環境政策課	

成果

① 自発的な環境行動の推進
<p>●「ながさきエコライフ・フェスタ」は、魚の町公園をメイン会場に、その他3か所の会場で開催し、約6,900人が来場した。(令和3年度:約2,600人→令和4年度:約6,900人)また、「ながさきエコライフ・ウィーク」期間中、家庭・学校・職場等から約39,200人が参加し、市民や事業者がイベントに参加することで、自らできる環境行動を知り、環境行動の実践に繋がった。【D1-1へ再掲】</p> <p>●「エコアクション21」説明会を開催し、22社27名の事業者が参加し、事業者へ環境に配慮した事業活動を促すことができた。また、そのうち2社は全4回の認証・登録取得構築講座に参加し、随時エコアクション21地域事務局が認証に向けた支援を行っている。</p> <p>●市民大清掃等のイベントや、ボランティア清掃団体に対してごみ袋の支給を行っており、約500団体、延べ約9万人がボランティア清掃に参加し、地域や職域、学校など様々な単位・団体による自発的な活動が定期的になされるようになっており、環境行動に対する意識の醸成が図られた。 また、ごみ出しマナーについて、新大学生へ向け、啓発促進のためのブースを学内に設置し、ごみの減量と分別の徹底を呼びかけることで、ごみ出しのマナーやごみの減量、分別に対する意識の向上につながった。</p>
② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成
<p>● 持続可能な地域づくりを担う人材育成推進を目的とした「ながさきサステナプロジェクト」の一環として、「サステナプラザながさき(長崎市地球温暖化防止活動推進センター)」において、より幅広い市民の身近な環境行動を促進するため、サステナひろば(19回)や海洋プラスチックごみ削減を目的とした山・まち・川・海での清掃活動(1回)等の市民向けイベントを実施した。</p> <p>●市内の中学生、高校生、大学生で構成される「ecoNながさき」のメンバーが、市議会議員とグループワークを行い、ゼロカーボンシティ長崎実現に向けた取組み等について意見交換を行った。このような若者の活動を拡大し、継続的なものとするため、活動紹介の場の提供等支援を行った。</p>
③ 環境行動に向けた周知・広報の推進
<p>● 広報ながさきに『ちょこっとゼロカーボン』を新設し、毎月市民の方が身近に行える環境行動の紹介等を行うことで、ゼロカーボンシティ長崎実現に向けた機運醸成を図った。</p> <p>●ゼロカーボンシティの実現を市民、事業者、行政が一丸となって目指すことを表現し、広く浸透していくことを目的としてロゴマークを作成した。</p> <p>●環境のために一人ひとりができることをまとめた「環境行動11か条」を広報ながさき折込や各種公共施設、長崎バスや路面電車などへ掲示し、併せて市公式ラインでも幅広く周知することにより、環境行動の実践につながるきっかけづくりにつながった。</p> <p>●子ども達に花や緑へ興味関心を抱いてもらうため、公共花壇デザインコンクールを開催し、多くの小学生(3~6年生)に花や緑について考える機会を提供できた。更に、デザインを花壇へ表現することで、子ども達に、より深く花や緑へ興味関心を抱いてもらうことにつながった。</p> <p>●より多くの人に花や緑に触れ、その理解と知識を深めてもらうため、造園関係団体等と連携して、「ながさきグリーンキャンペーン」において4年ぶりに会場イベントを開催し、約1,500人が来場した。多くの人に花や緑に触れる機会を提供することで、その理解や知識をより深めるきっかけづくりにつなげることができた。</p>

問題点とその要因

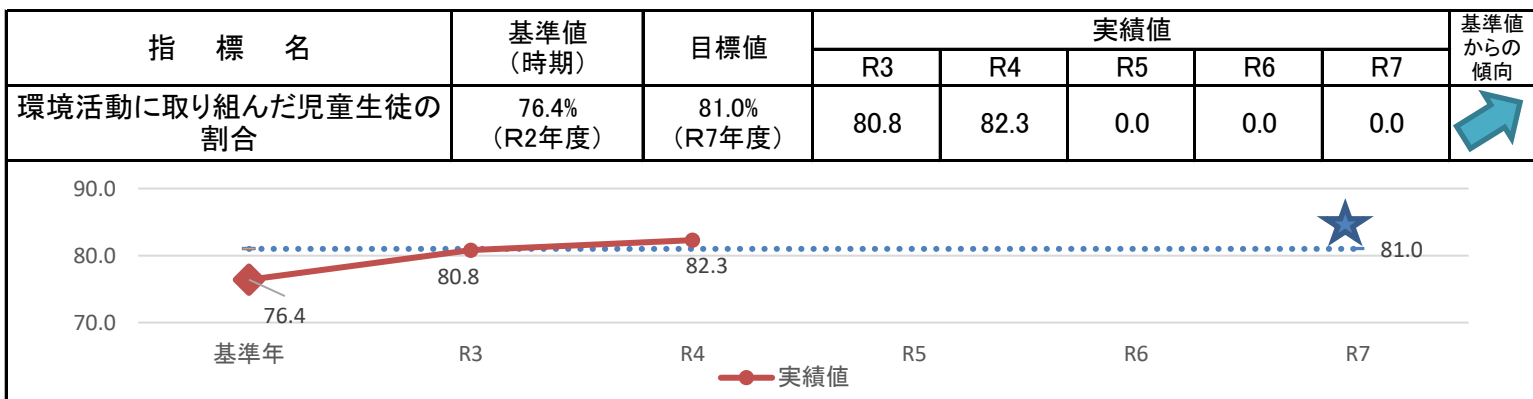
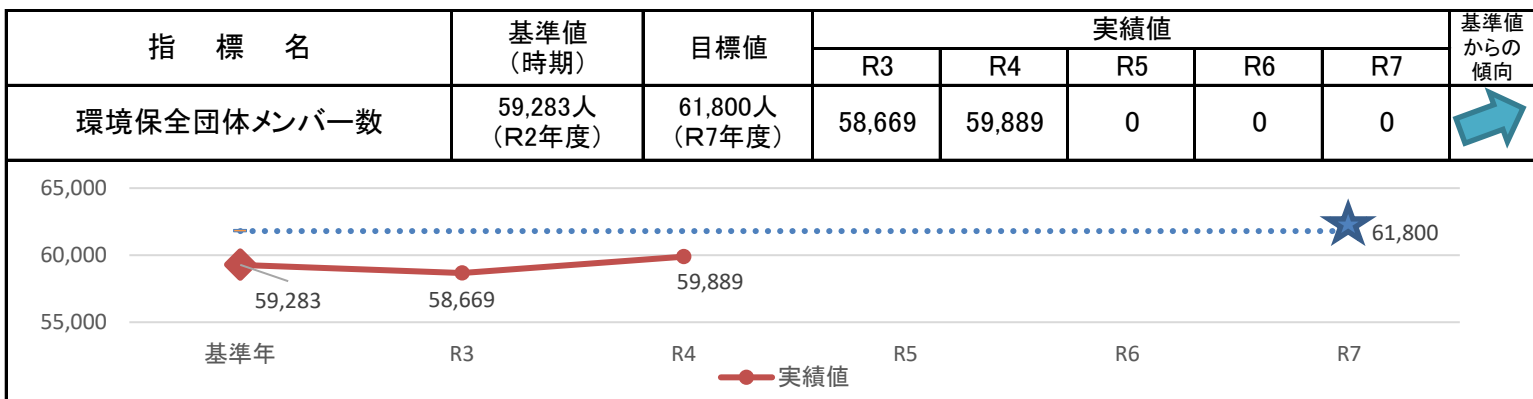
① 自発的な環境行動の推進
<p>●「ながさきエコライフ・ウィーク」の取組み及び周知方法が恒常化しており、環境活動に興味がない層の参加があまり広がっていない。</p>
② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成
<p>●ecoNながさきの構成校が4校のみでかつ環境分野のメンバーのみと限られており、より市内全域の若者にゼロカーボンシティ長崎達成のための意識醸成を図るためには、構成校の増加及び他分野の若者の参加に努める必要がある。</p>

③ 環境行動に向けた周知・広報の推進
●「サステナプラザながさき」が「環境行動の推進役」としての存在が知られていないため、認知してもらうのための方法を模索することが必要である。
●広報ながさきなど紙媒体での周知は行っているが、若者がよく利用しているスマートフォンで周知可能なバナー広告やSNS等での広報が十分でない。
●環境行動を促すための情報提供やアドバイス等が市民まで行き届いていないため、環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしが十分でない。
●緑化推進事業の取組み及び周知方法が恒常化しており、より多くの市民の参加が見られていない。

今後の取組方針

① 自発的な環境行動の推進	
継続	●「ながさきエコライフ」の取組み等を通じて、市民生活や事業活動における温室効果ガスの排出削減や、省エネなど身近な環境行動を促し、市民及び事業者への周知・啓発を充実することで、継続的な環境行動の実践を進める。
新規	●ゼロカーボンシティ長崎をPRするため、ポータルサイトやPR動画等を作成し、ポータルサイトでは、ナッジ手法等を取り入れ市民参加型の仕組みを作ることで、周知だけでなく市民の環境行動が変容するよう努める。
② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成	
継続	●ecoNながさきの構成校増加及び他分野の若者の参加を促すことで、市内全域の若者に環境に関する関心を持ってもらい、次世代を担うリーダーの育成を図る。
③ 環境行動に向けた周知・広報の推進	
継続	●「環境行動の推進役」としての「サステナプラザながさき」の周知を行うとともに、市の様々な広報手段と連携して、取組み内容を発信し、幅広い市民の参加につなげる。
新規	●ゼロカーボンシティ長崎をPRするため、ポータルサイトやPR動画等を作成し、幅広い年代に認知してもらえるよう、紙媒体だけでなく、SNS等のデジタル媒体も積極的に活用する。
継続	●幅広い世代へ緑化の推進を図るため、市の様々な広報手段と連携し、緑化の魅力を発信するとともに、イベント等を開催することで、花や緑への興味関心を促す等、緑化の啓発に取り組む。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	地球温暖化対策市民運動推進費	ゼロカーボンシティ推進室
	事業目的	市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、「だれでも」「いつでも」「簡単に」取り組むことができる運動を展開し、CO ₂ の排出量削減に向けた市民運動の創出を図る。	
	事業概要	「ながさきエコライフ」の取組みの更なる浸透と拡大を図るため、ながさきエコライフ基金等を活用し、広く市民が参画する活動や、未来を担うこどもたちの活動へ還元することで、市民の自発的かつ継続的な環境行動を促進する。	
	取組実績	ながさきエコライフ・フェスタ 6,900人 ながさきエコライフ・ウィーク 39,200人 ながさきエコネット登録者数 56,626人	
	決算(見込)額		19,682,494 円



【エコライフ・フェスタ】



【若者と議員による意見交換】